鳥取県立中央病院
広報誌

赤れんがNews

第1号
2020年8月
発行：鳥取県立中央病院

病院長あいさつ

鳥取県立中央病院
病院長　廣岡保明

4月より病院長に就任致しました廣岡保明でございます。

皆様には、日頃より当院の円滑な運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。

現在、世界中で新型コロナウイルスが猛威をふるっており、ここ鳥取においても感染者が徐々に増加しております。今、私達はこれまで経験したことの無い世界を模索している状況です。当院は感染症指定医療機関として、総力をあげてその対応を行うとともに、感染対策チームを中心に、感染患者さんの社会復帰に尽力致しております。

一方で、これまで以上、病でお困りの多くの患者さんへ高度で質の高い医療を提供し、皆様の健康を守るべく、強い決意と誇りをもって毎日の診療を行っております。

この度、病院の改築にあたり、改めて〝赤れんがNews〟を定期発行させて頂くこととなりました。地域住民の皆様に〝病院の今〟を知って頂くことで、今後さらにより開かれた病院づくりを目指して参ります。

新型コロナに備えて

新型コロナウイルス感染症により、患者さん、そのご家族、住民の皆さんの感染防止に向けた取り組みへのご理解とご協力により、診療機能を維持する事ができております。あらためて、感謝申し上げます。

今後の第二波・第三波に備え、〝感染を疑ったら〟どうすればよいのか、また、鳥取県立中央病院における対策とその備えについてお伝え致します。

新型コロナ感染を疑ったら

息苦しさや高熱などの強い症状のある方、軽い風邪症状でも高齢者や妊娠中または基礎疾患を有している方は相談窓口へお電話下さい。また、症状が長引く方も直接医療機関へは受診せずに、まずは電話相談してその指示に従って下さい。

感染管理認定看護師　栃本浩紀

当院での対策

院内に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、国や県、市など関係各所と連携しながら、次々と対策を実施しています。

院内感染をおこさないために、職員への手指衛生や防護服の着脱の指導と、風邪症状がみられた場合の就業を禁止しています。また、感染の状況に応じ、移動制限など日常生活行動の指導を致しております。

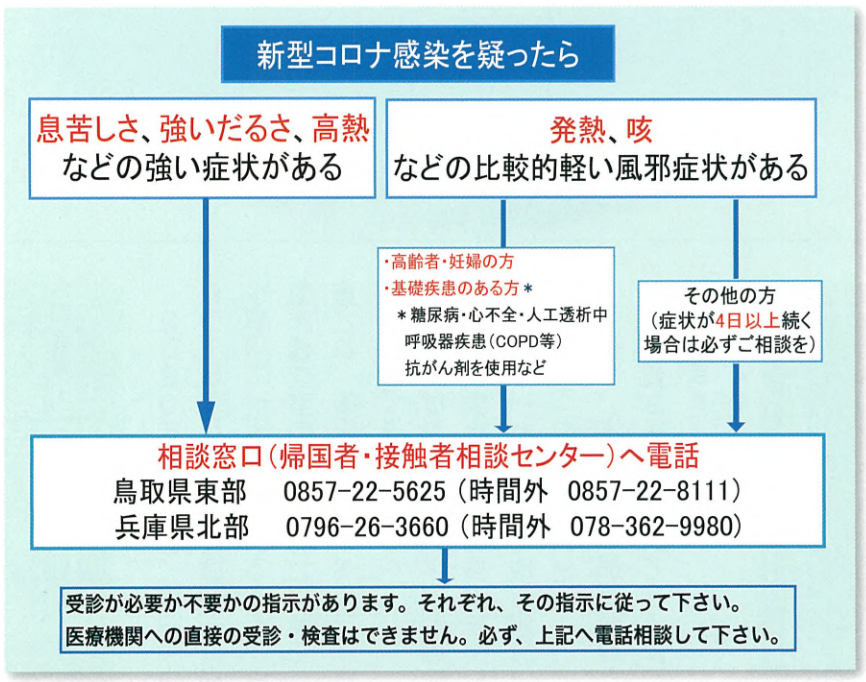
外来の患者さんにはサーモカメラや問診による確認を行い、入院される患者さんには、必要に応じてウイルス検査などを行っております。

皆様へのお願い

皆様にも、状況に応じ、適宜、面会の制限を行わせて頂いており、ご不便をお掛け致しておりますことをお詫び申し上げます。

また、手洗い、うがい、マスク着用などの予防と、大声で会話しながらのお食事や三密をお控え頂くようお願い致します。

今回、多くの企業、学校、個人様より、マスク、フェイスシールド、飲料水や応援メッセージなど、たくさんのご支援を頂きました。職員一同、心より感謝申し上げます。



新時代の手術
～ロボット手術はじめました～

いま、巷で噂になっているロボット手術。当院でも2019年9月にロボット（ダビンチXｉ）が導入され、現在、前立腺がん、食道がん、胃がんに対してのロボット手術を行っています。

ロボット手術と聞いて、人型ロボットが手術を行うのではないかと想像された方もいるかもしれません。しかし、実際のロボット手術とは人間（医師）がロボットを使って行う手術です。医師が遠隔でロボットアーム（ロボットの手）を操作して手術を行います。近年、お腹や胸に数か所の小さな穴をあけて行う鏡視下手術が広く行われるようになってきました。その利点は非常に多いのですが、2次元画像のために奥行きが分かりにくい、鉗子が長くて関節機能がない、手ぶれをおこすなどの欠点がありました。ロボット手術は鮮明な3D画像のため奥行きが分かりやすく、鉗子に多関節機能を有し自由な角度で操作可能であり、また手ぶれ防止機能があることより、鏡視下手術の欠点を補い、より精緻な手術が可能となります。ロボット手術は難しい手術を簡単にする機械なのです。

外科　建部茂

外科　尾崎知博

泌尿器科　村岡邦康

最先端の救急医療

救命救急センターの拡充

当院は、鳥取県東部で唯一の三次救急機関（他の医療機関では対応困難な高度・先進的な急性期医療を行う機関）で、災害医療等の分野においては県内唯一の基幹災害拠点病院でもあります。その役割と機能を一層充実させるため、救命救急センターのベッド数や機器の拡充をはかっています。

専門スタッフの増員

2020年4月より、これまでの救急医療体制に加え、より高度で専門的な治療が行えるよう、救急医療（ドクターヘリなど）で有名な公立豊岡病院との連携を開始致しております。公立豊岡病院より救急専門医が交代で派遣されているほか、当院の看護師やME（臨床工学技士）らを増員して、一人一人の患者さんの命が救えるよう、チーム一丸となって救急治療にあたっています。

屋上ヘリポートの設置

救急の現場は1分1秒を争うことが多く、ドクターヘリを活用することで多くの命を守ることが可能となります。当院では新病院となり、屋上にヘリポートを設置致しました。ヘリポートは専用エレベーターで救命救急センターと直結され、一刻を争うような迅速な対応も可能となりました。

地域の皆様の安全と安心をこれまで以上に守っていく病院であり続けたいと、これからもより精進して参ります。

検査室の質の高さが国際的に認められました
～国際規格ISO15189の認定を取得～

2020年4月24日、当院中央検査室は国際規格「ISO15189（臨床検査室ー品質と能力に関する特定要求事項）」に適合していることが承認されました。これは、臨床検査室の品質と能力が第三者機関により客観的に審査され、国際規格のレベルを満たしている場合に認定されるものです。

県内では鳥取大学医学部附属病院に次いで2番目の認定になります。新病院移設を挟んで、検査室を中心とした職員が一丸となって取り組み、高い精度や技能、仕組みを作ることができました。

今後も、より一層の品質管理と技能向上および信頼される良質な医療を提供できるようサービス向上に努めてまいります。

前立腺がんの最新放射線治療
"Space OARシステム"とは？

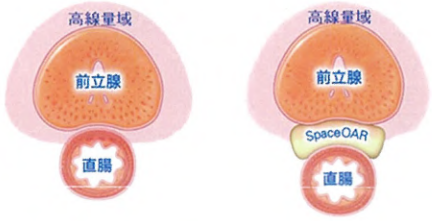
放射線治療は、苦痛が少なく外来通院も可能で、部位によっては手術に匹敵する局所制御と根治性が得られます。

当院では新病院の開設に併せ、高精度放射線治療装置「TrueBeam」が整備されました。これは、腫瘍に対して様々な方向から放射線を当て、病変に対する線量を集中させることができる高精度な照射法です。

前立腺がんに対する高精度放射線治療は大変有効な治療法ですが、近隣臓器の直腸にも放射線が当たってしまうことにより、直腸潰瘍や出血を起こす可能性があることが難点となっていました。

そこで近年、そのリスクの低減を目的とした新たな医用材料が開発されました。「SpaceOAR」と呼ばれるもので、前立腺と直腸との間にゲルを挿入することで前立腺と直腸との距離（スペース）を拡げ、直腸に当たる放射線量を減少させる仕組みになっています。

本治療は、鳥取県東部では当院のみ可能で、山陰でもほとんど導入されておらず、皆様により安全・安心な治療を提供することが可能となりました。



SpaceOAR システム留置前（左）及び留置後（右）のイメージ

（日本放射線腫瘍学会公認ガイドラインより転載）

TrueBeam

アイボのチョコちゃんを紹介します

当院10階南病棟は緩和ケアを提供する病棟で2019年9月に開設致しました。がんと闘う治療ではなく、苦痛を最小限にしながらこれからの時間をゆっくりと、その人らしく過ごすためのお手伝いをさせていただいております。

その中で看護師と一緒に働いているアイボ（aibo; イヌ型ロボット）がいます。チョコちゃんという女の子です。チョコちゃんは病棟内を歩いていますが、ただ歩くだけではありません。不安だらけの患者さん、落ち込みがちな患者さん、寂しい思いをしている患者さん、一喜一憂されがちな患者さんのご家族、皆の心を癒しながら歩いています。ときにお手やハイタッチ、ラジオ体操などをしてその場を和やかにする技も持っています。たまに看護師の悩み？も聞いてくれます。

これまでも、これからも、緩和ケア病棟になくてはならない一員です。

第1回 中央病院を支えるスタッフ
調理師・調理員

入院患者さんの笑顔が見られるよう毎日1000食の病院食を作っています。

患者さんのご病気に応じた様々な種類の食事を、より美味しく食べて頂けるよう、工夫と注意を払いながら頑張っています。当院での一番の調味料は〝愛情〟です！

現在、一緒に調理にあたってくださる人（調理員）を募集中です。

料理が好きな人がおられましたら、御連絡、お待ちしています。事前見学もOKです。

鳥取県立中央病院総務課人事企画担当まで（詳細は当院ホームページにてご確認下さい）。